

第2回平戸市総合計画審議会

議 事 録

と き：平成29年4月26日（月）14：30～16：50

と ころ：平戸市役所3階大会議室

開 催 日 時	平成 29 年 4 月 26 日 (水) 14 : 30~16 : 50
開 催 場 所	平戸市役所 3階大会議室
出 席 委 員 (50音順、敬称略)	池田直彦、今川亮生、上田正子、相知清隆、岡村幸夫、岡山紀一、 小田サチ子、柿添圭嗣、鴨川周二、久原鐵男、坂本鏡心、西サチ子、 藤澤美好、松山芳弘、村上則夫、森 健司、山口純哉、吉居辰美、 (18名)
欠 席 委 員 (50音順、敬称略)	滝 知則、橋口和久、吉福弘実 (3名)
事 務 局 (財務部企画財政課)	吉住財務部長、小出企画財政課長、藤山企画統計班長、峯野企画統 計班係長、山口企画統計班主査
次第 1. 開 会	
2. 審議会会長 あいさつ	村上会長
3. 議 題 (1)第1回審議会 からの経過報告	(事務局から説明) 質疑・意見等無し
(2)第2次平戸市 総合計画 基本 構想骨子案につ いて 会 長	(事務局からプロローグ及び第1部の説明) まず、文字が小さいという点について、最終的に見やすくなるように 工夫される。 一般的に、基本構想の作りは、地域の現状・課題から始めて、最後に どういう姿にするかということを持ってくるという形が多いが、今回 は、旅に見立てて、まず目的地を示し、そこに向けたプロセスを書いて いくという形にして、市民にわくわくしながら読んでいただきたい。大 いにご発言を頂いて、いいものにしていきたい。

委員	これはどの範囲に配布されるのか。
会長	市民の皆様全員が見られる。携帯しやすさや、見たい時にぱっと見られるようにと、形を小さくした。
事務局	<p>前回の計画の時に、全戸向けには概要版を作って配布した。今回も、全戸配布は概要版にする予定。概要版のサイズはまだ決まっていない。</p> <p>計画の冊子について、今回は、希望者には販売をしたように記憶している。今回はどういう形になるか分からないが、希望する方には冊子も渡せるようにしたい。</p>
委員	1ページの下から2行目について、「やるばい」・「やらんば」についてはどちらでもいいか。それよりも、その前の「「誰か」ではなく「私が」」の部分が気になった。文法的に、「「誰かが」ではなく「私 が」」とするべきではないか。
会長	修正については事務局で検討する。
委員	非常に格好いい形で作られているが、市民が自分のことは自分で考えていこうというニュアンスとか、市も国任せではない行政のあり方、市民も行政任せではないあり方というのをもっと表現してもいいように感じた。これまで、そういうものに寄り掛かってきているので、今のよう な書き方では、市民は絵に描いた餅みたいな感じでしか捉えないと思う。そうならないよう、もっと市民のことは市民で考えようというところを強く出したほうがいい。
会長	まちづくりは参加、参画、協働という形で、以前は、行政がつくって、動きだしたら市民が参加して運用していくという形だったものが、今は最初から行政と市民が対等の立場でものを見て、道をつくっていく

	<p>という形が主流になってきている。そういう意味では、確かに、奇麗につくるよりも、むしろ泥臭く、もっと市民がこれは自分たちのことなのだと思えるような文言が少し入っていいのかもしれない。</p> <p>委員 8ページの(1)の「人を磨く」について、平戸市は「生涯学習都市宣言」のもと生涯学習が盛んで、そこに参加していて感じるのは、生涯学習は地域リーダー育成まではつながっていないということ。まちづくりには地域リーダーや、その下の応援団が必要。生涯学習の研修や勉強は応援団の育成には非常に役立っていると思うが、強力な地域リーダーをつくるためには、それに特化した塾を行うなど、他の手段が必要だと思う。そういうことに市が金をつぎ込んで、失敗しながら何年もかけてでもやっていかないと、そういう人たちをつくることはできない。だから、ここの「人を磨く」のところには、そういう意味合いの記述を追加して、そこまでやるという強い決意を示してほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>まちづくりに関しては問題が3つある。1つは、今おっしゃった、リーダーの不在。2つ目は財源の問題。もう1つは高齢化。まちづくりに携わっている方たちが高齢化して、代を替わりたいけれども、次世代がないという問題がどこの地域でもある。地域づくりは人づくりと言われるが、そこにはリーダーが不可欠。リーダーがしっかりした所は、お祭りやいろいろなことを盛んにしているが、リーダーが不在の所は難しいということもあるので、ご意見のような内容を強調する文言があってもいい。</p>
<p>委員</p>	<p>リーダーについて、私が思うリーダーというのは、自ら志を持って、望んで来る人。研修の制度を設けるのは非常にいいことで、私もそういう研修に何度も参加しているが、自分が行きたくて申し込んだ研修はとても勉強になる。逆に、「あなた、行ってきなさい」と言われてしぶしぶ行く研修は全然勉強にならないので、何でもかんでもリーダー育成するというのではなく、やる気がある人を引っ張っていくような意味合い</p>

	<p>の書き方をするといいのではないか。</p>
会 長	<p>自分が命を預けている場、それが平戸市なのだという思いが強くなって、自分がやるという人が自然にたくさん出てくれば一番いいと思う。ただ、リーダー育成というのはどこでも言われているというのが実情で、そういう時代なのだなと感じている。</p>
委 員	<p>地域にもこの大きさのものを配布するのか。</p>
事務局	<p>計画の冊子はA 5サイズを検討している。どう見えるかというところも含めて、今回はそのサイズで資料を作った。配布については、完全版の冊子は市職員で共有する範囲程度で、地域の皆さんに対しては概要版を世帯配布する形になろうかと思う。ただ、一般の市民の方で冊子が必要な方も出てくるので、例えば前は確か販売していた記憶があるが、どのような形で市民にお渡しするか、これから詰めたい。</p>
委 員	<p>区の区長会等でいろいろな配布物があるが、このように小さい文字の文書を地域に配るのはやめてほしいとか、もう少し字を大きくしてほしいという要望が日頃からとても多い。</p>
会 長	<p>全世帯に配るダイジェスト版のほうは、かなり工夫する必要があると考えている。</p>
事務局	<p>字が小さいと見にくいという意見は承知している。市民の皆様に配る概要版は、まだ大きさは決めてないが、冊子よりも大きいものになるのではないか。そこは今後の協議で決めていきたい。</p>
事務局	<p>今の段階ではA 5版を想定しているが、これは議会で議決してもらう計画でもあり、審議会や議会の意見でA 4のほうがいいということになれば、そのようにする。その辺はまだ確定ではないという前提で、A 5</p>

	<p>のイメージを持ってもらうために、今回はA5の資料にした。字が小さいという問題について、最後のレイアウト等の調整のところで文字を大きくできる。</p>
会 長	<p>最近は大学の案内等も、学生たちが持ち歩きやすいように、小さめになってきている。趨勢としてはそういう傾向にあるが、少し検討していただきたい。</p>
委 員	<p>今の説明で、用途が違う2つのものを作られるということが分かった。女性にとっては小さいほうが持ち歩きにはいいので、小さくすることは賛成だが、やはり見にくい。</p>
会 長	<p>今後、イラストや写真も入れたりして見やすいように工夫していくので、今の点についても検討をお願いしたい。</p>
委 員	<p>観光の立場から、それぞれの地域には個性があるが、一般的に数字をはめ込んだ形では、その特色があまり出ていない。産業とか魅力という話をすると、平戸は江戸時代よりも前からいろいろな交易を図って、にぎわったまち。先人たちが、平戸市民だけでなく外から人を呼んで、栄えたまち。このように、平戸市民だけでがんばろうという形ではなく、交流とか、外から来てくださいとか、平戸はこういう独特の地域なので、すからどどん人々を呼んで栄えましょうということを表現するといいいのではないか。</p>
会 長	<p>世界の中の平戸という視点は大切。平戸という独立した1個の市であるとともに、世界の中の1つの市でもあるという2面性を持っていることもこの市の特色。そういうことも反映できればいい。</p>
委 員	<p>私は長崎市から来ているのが、よく向こうで聞くのは、平戸は市民が相当参加していて、一緒にまちをつくらうとしているという話。そうい</p>

	<p>う観点から見ると、この骨子案は旧態依然とした総合計画と、新しい、自分たちでつくるのだという総合計画との間で揺れているのがよく分かる。</p> <p>例えば、主語が最初は「市民が」だったのが、だんだん「役所が」になってきている。市民が要望をして行政がそれに応えるという昔ながらの形が出ている。そうすると、市民の声が全てではない。</p> <p>また、市民の声でいうと、優先度も満足度も低いところに「公共交通の充実」があるが、本当にまち全体の 30 年後のことを考えたら、その優先度は低くはないはず。皆さん、死ぬ前の日まで車に乗るわけではないので、公共交通は今のうちにきちんとつくっておく必要がある。市民も、サービスの受け手としてこれをやってほしい、あれをやってほしいだけでなく、全体の立場から考えるという視点が欲しい。</p> <p>また、仕事について、企業誘致と雇用創出に努めるとあるが、これはもう役所の話になっている。また、企業誘致については、何の企業を誘致するかが重要。先ほど特徴という話があったが、従業員 300 人の製造業ではなく、1 人、2 人の従業員でもいいから、きちんとしたペンを誘致しようとか、体験ができるような施設を誘致しようとか、もっと言えば、自分たちで仕事をつくっていくのだというところがもう少し出てきてもいいのではないかと思う。さらに言えば、誘致だけを考えていたのでは、他の所との競争で取れるかどうか分からないし、そこに交渉に時間と人と手間をかけるのはナンセンスなところもある。</p> <p>最後に、後半に出てくる 5 つのポイントや、第 2 部でも、観光と雇用の部分が別れて書かれている。先ほどの意見でもあった、観光がここの特徴であるなら、観光の振興を図れば、結果として雇用創出が図れ、事業所の誘致も図れるというストーリーにならないといけない。これまで役所の中では観光と雇用は別のセクションで縦割りになっていたため、いまだに施策がそのように割られているのだと思うが、その辺も検討の必要があるのではないか。</p>
委員	私の周りには、今、若い人たちが I ターン、U ターンで帰ってきて、

<p>委員</p>	<p>地域の人とつながりながらいろいろなイベント等をやっているのが、先日、言った本音が、「食べていけない」だった。それを聞いてとてもショックだった。4、5ページで、重要度が高くて満足度が低いところに「雇用」が入っているが、若い人たちが食べていけるようにするといったニュアンスも出したほうがいいのではないか。</p> <p>4ページの満足度・重要度の図について、にわかに信じられないような内容になっているが、これはどのような範囲から集められたのか。</p> <p>例えば、医療は重要度が高くて満足度が低いとなっているが、近隣の市と比較すると、市内の病院で救急を完結できる率は、平戸は80%と、長崎県下ではものすごく優秀。近隣の市は30%程度。平戸では一次救急、二次救急は北部、中南部、田平、生月の4病院で確実に受けて、三次救急でないといけないときのみ、佐世保に回す形にしている。また、平戸は救急患者のたらい回しのない市ということで、長崎県下ではすごく高く評価されている。他市では、救急車の向かう病院が決まらなく停まっているのをよく見掛けるが、平戸ではそういうことはない。こういう状況を分かっている人が、平戸の救急の満足度が低いと言ったのか。</p> <p>あるいは、平戸市民病院は東京や大阪からも研修医を受けているが、そういう研修医が驚くのは、平戸はのどかな所だと思っていたのに、来てみたら、コンソーシアムというものをやっていて、市民病院、生月病院、柿添病院、青洲会の4つで研修があると、64列のCTやMRIもあって、緊急手術にもどんどん対応していて、予想に反して忙しかったということ。</p> <p>それとは別に研修医がもう1つ驚くのは、街の真ん中でバキュームカーがし尿処理をしていること。今どき、そんな観光地は他にはない。それなのに、なぜ「し尿処理」が満足度も重要度も高いところあるのか。そういう状況で皆さんが満足というのは、私は不思議でたまらない。そんな基本的なことが出来てないし尿処理よりも、医療の満足度が負けているというのは、平戸市の医師会長として信じがたく、受け入れられない</p>
-----------	--

	<p>い事である。</p> <p>また、平戸市民病院の押淵院長は日本全国の国保病院会の会長で、私の病院の診療部長は昨年、九州ヘルニア学会の会長をしている。明日、横浜で開催される日本外科学会総会で外科の最高権威の学会があるが、そこでうちの病院が発表する。平戸の医療はそんなふういろいろなことをしていることを分かっていたら、誇りを持っていただきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>シビックプライドというのは誇りとか地域愛という表現だが、自分の住んでいるまちに誇りを持っていただきたいというニュアンスは盛り込んでいる。</p>
<p>委 員</p>	<p>アンケート結果は、あくまでアンケートの結果として出されているもので、市民目線ではこういうことだと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>企業誘致について、10年後を考えると、IT関連の技術が相当上がってくると思う。頭脳産業の誘致とか、そういう学校を造るなど、特色ある企業誘致をするような、少し突っ込んだ記述をするといいいのではないか。</p>
	<p>3ページの、「未来へのチャレンジ」というタイトルについて、その下の①②③のタイトルは「……するまち」という形で具体的に書かれているので、一番上のタイトルも抽象で書かず、「未来へのまちチャレンジ」など、具体的に書いたほうがいいのではないか。</p> <p>8ページの「未来への5つのポイント」というタイトルは、その後に続く内容を見ると、「5つの戦略」のほうがいい。また、(1)から(5)のタイトルについて、全部「……する」という形で止まっているが、例えば「人を磨く」の先に何かあると思う。その先にあるものをタイトルに入れて、例えば(1)であれば「人を育て、育成し、リーダーを……」のようなタイトル、(2)であれば、地域コミュニティの話、今、厚生労働省がよく言っている共生社会という要素を含め、「きずなを深め、ふれあいのまち……」というようなタイトルにしたほうが、分</p>

	<p>かりやすく、インパクトがある。人というのは、タイトルが面白いと読みたがる。今の形では硬くて読みたくない、工夫したほうがいい。内容については非常にいいと思うので、その中身を生かすためにも、読みたくなるようなタイトルにしたほうがいい。</p> <p>もう1点。今、人口減少が大きい課題。この5つのポイントの中のどこかに、子育てとか、生み育てるとか、出生を上げていくといった人口減少対策に関する記述を入れたほうがいいのではないかな。</p>
会 長	<p>この5つのタイトルについては、実はこれまでの起草委員会等の協議の中でも何度も変わった。片仮名をあまり使うと市民の皆さんには違和感があるかもしれないから日本語がいいだろうとか、そういう意見をいろいろ取り入れて、何度も書き替えながらここまで来たという経緯がある。もちろんこれが100%ではないわけで、今頂いたご意見も貴重な意見だと思っている。</p>
委 員	<p>変えるのが無理な場合はこのままでいい。</p>
会 長	<p>確かに、「あ、読みたいな」と思うようなタイトルにするというのは大切だと思う。</p>
事務局	<p>ここのタイトルについては庁内の企画委員会でも指摘があった。我々としてもまだ不満に感じているところがあるので、今のところは、取りあえずキーワードが「人」「きずな」「魅力」「産業」「経営」の5つということで、タイトルについては引き続き検討するという事にさせていただきます。</p>
委 員	<p>これはコンサルの人が作っているのか。</p>
事務局	<p>コンサルからは案を頂き、事務局のほうで検討・修正したものを起草委員会で図って、その意見も反映したものを示している。</p>

<p>委員</p>	<p>例えば6、7ページなど、Word 感満載です。コンサルが入っているのだったらデザイナーさんもいるので、少しデザインを工夫されたほうがいいと。</p>
<p>事務局</p>	<p>これは事務局の中で作っている状態のもので、まだデザイナーの手は入っていない。最終的な段階でデザイナーが入る。</p>
<p>委員</p>	<p>今日は序盤と基本構想だけの審議だが、これを具現化するためにどうするというのは、この後で出てくるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本構想はピラミッドの一番上の頂点の部分で、具体的な細かい言及までは入らない。それを具現化するための記述は、その下にぶら下がる基本計画、個別プランのところで書く形になる。</p> <p>この後、市の課長レベルの会をつくって、具体的などころの案を協議に入る。今の時点では基本構想でこういう方向性で行くということを決めて、その後で具体的な計画につなげていく。</p>
<p>会長</p>	<p>これは骨子案なので、人間で言うと骨の部分になる。骨をまずしっかりさせた上で、肉付けはこれからとなる。</p>
<p>委員</p>	<p>他の市でも県でもこういう計画が作られているが、活用されていない所もあります。基本構想とか計画が実現されるかどうか重要。例えば、子どもたちの学力を向上させようという目標があったとする、その目標を達成するためにどういう手だてをするのか、そして、その手だてをした結果、どうなったのか評価をして次の目標に生かしていくというふうに、マネジメントサイクルでやっていかないと、こういうものは生かされない。だから、今回の計画書についても、作り上げた後に、「ここはできているね」、「ここはできてないね」ということを市民の皆さんがやるような形のものにすることが大事。</p>

<p>会 長</p>	<p>この計画もP D C Aで評価・再考しながら回して行って、目標を達成する形になる。</p>
<p>事務局</p>	<p>1回目の時に、資料で「総合戦略」を配布した。今、日本全国の各市町村で総合戦略を作っているが、その中で、必ずP D C Aサイクルで検証をしながら、次の展開を図っていきなさいということになっている。今回は総合計画の中に総合戦略を包含した計画にするので、この基本構想と、その下の基本計画、さらに下の実施計画についても、それぞれのK P Iを掲げて、検証しながら実施していく。今言われた学力であれば、例えば学力テストで平均値以上にするという目標を立てて、それを検証しながら進めるということになる。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局から基本構想骨子案第2部の説明)</p>
<p>委 員</p>	<p>高齢者代表としての立場から発言させてもらう。</p> <p>平戸市は、今、40%も存在する高齢者についてこの中には何も載っていない。若い人だけの話だけではなく、高齢者をどうするか、その上でどういう社会をつくるのかということも書き込んでいただきたい。例えば、高齢者の役割として、今まで培ってきた知恵や経験をまちづくりに生かしていくことができる。人口増対策のところでも、おじいちゃん・おばあちゃんがいる所は孫がいっぱい生まれている。つまり、おじいちゃん・おばあちゃんを大事にして、一緒に住めば子どもが増える。また、昔ながらの食べ物についても、おじいちゃん・おばあちゃんではないと分からない。だから、高齢者もまちづくりに顔を出して頑張ってもらって一緒になって進めていかないと、まちづくりはできないと思う。私はそう理解していた。この計画を読んだときに、高齢者という文言は2回しか出てこず、具体的な話は何もなくて、残念でたまらない。ぜひ、プロジェクトの中に「活力ある高齢者社会をつくるプロジェクト」といった項目の追加を検討していただきたい。</p>

<p>会 長</p>	<p>高齢者は社会的資産。地域づくりに大いに活用していただきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>25 ページ、「しごとをひろげるプロジェクト」の産業面について、私どもも海外展開を考えているが、平戸は昔から貿易港だったという時代背景があるので、海外展開、輸出といったところも入れてはどうか。また、「しごとをひろげる」となっているが、創業という言葉もあるので、「しごとをつくる」という文言でもいいのではないか。市の商工部門の方は東南アジアに視察に行くなどして、かなり勉強されている。産業界と行政が一緒になって海外展開を進めていくとなれば、業界としても売上が上がるし、後継者も目を向けると思う。そういうことを見据えた展開を考えていく必要がある。</p>
<p>委 員</p>	<p>私は平戸市内で生まれ、現在もここに住んでいる。昔はサーカスなどのイベントに歩いて行ったが、今は皆さん高齢になって、中央にお店がたくさんあるのに、行けない状態。高齢者は車で移動するのに、駐車場が海岸の端のほうにしかない。もう少し中央に駐車場ができれば、平戸全体から人が集まって、市内もにぎわう。先生の記念碑も、以前は入り口の所にあったが、今は奥のほうで、子どもたちも知らない。公園もみんな上のほうで、子どもたちが行くには危ない。そういったこともまちづくりの1つなので、ぜひ計画の中に入れていただきたい。高齢者や子どもが安心して散歩したり遊んだりできるというのも基本的なこと。</p>
<p>委 員</p>	<p>25 ページに、農林水産品、加工品の平戸産品の情報発信をするとあるが、平戸産品自体をもう少し工夫する必要があると思う。現状は、あまりにも昔からのものばかりで、目を引くような、人の心を捉えるような品物が少ない。</p> <p>1つの例だが、昔、雪のひどい日に千利休のところに豊臣秀吉が突然来て、何か食べさせろということになったときに、何の準備もなかった中で千利休は、ゆうべもらったぼた餅と庭になっていたユズを使ってさ</p>

っと料理し、秀吉に出した。朱塗りの盆の上には、黒い汁の入ったおわんとユズみそが置かれていた。その黒い汁をかき混ぜると、中にはあわ餅が入っていて、ユズみそと合わせながら食べるとものすごくおいしかった。秀吉はたいそう喜んで、「これは何というものじゃ」と尋ねた。すると千利休は、秀吉が「これはよいかな、これはよいかな」と言われたから、「よいかな」と書いて、「ぜんざい」と名付けましょうと言って、ぜんざいできた。

つまり、特別な物がなくても、今あるものをアイデアでおいしくすることができる。アゴも煮だしを作るだけではなく、いろいろ工夫して、平戸独自のおいしいものにするといい。大分の「うまごろし」とか「やせうま」もアイデアでできている品物。平戸でも、ちょっとした工夫で良いものができる。

委員

医師会の立場からの意見だが、基本プロジェクトの（２）の「ひとをそだてる」について、長崎県の健康寿命は、男性はワースト３、女性もワースト６くらいで、健康寿命を伸延しないと幸せな生活は送れない。子育ても大切だが、子どもを生んでくれる人の数は決まっているので、70歳で寝込んでしまわないところに重点を置いて、長野県がやっている「ピンピンコロリ」の取り組みもやっていく必要がある。26ページの上段に「医療体制や各種福祉の充実を図り」とはあるが、これではいかにも官的な表現。平戸医師会が考えているのは健康寿命日本一。健康寿命の一番悪い所は和歌山県だが、なぜ悪いかというと、軽四輪が普及してお年寄りが歩かないから。東京などの都会は車に乗らずに地下鉄を使うので、階段の上り下りで体が強くて、元気なお年寄りが多い。平戸の皆さんにももっと歩いてほしいが、歩こうにも、イノシシは捕ってくれない、草もぼうぼうで歩けない。市は何をしているのかと言いたい。本当にやるつもりがあれば、医師会としても、日本一の健康寿命を目指すので、みんな協力しましょうと、そのような文言も入れてほしい。

委員

<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>基本プロジェクト5の「行財政運営」について、金の使い方の話で終わっているが、もう1つ大事な、地方分権時代に対応できる市役所への脱皮がある。平戸市役所の職員の意識の改革、そして、政策形成能力、企画力を養っていくことも、協働でまちをつくっていくときの最低必要。これは第1次の時にも答申されたが、各課を回っていて、あまり変わっていない。そこが一番変わってほしい。特に市街部は、住民にどうしろ、こうしろと言われて、住民が進めようとする、市役所はすぐ逃げるといふ声を聞く。そうではなく、一緒になってやる意欲を持っていただきたい。国の政策を下に流すだけでは駄目。まずはそこを変えないと、市民と協働と言っても、できないと思う。自分たちのことは書きにくいと思うが、行政改革とセットで職員の意識の改革という項目を書くくらいの勇気を持ってほしい。</p> <p>もう1点、10年先の計画をつくるわけだが、そのためには現況をしっかりと分析し、今のままだったら10年後にはどうなるかという姿をしっかりと把握して、それを市当局と住民とで共有する必要がある。それがないと、市民の協力は受けにくいと思う。そういうことがここにはほとんど書かれていないので、どこかに、市民に分かるように入れておくべきだと思う。</p> <p>危機意識ではないが、このままではこうなりますよという姿を示すことも必要。</p> <p>今の意見に関連して、協働についてはおかしい面があると私も感じている。市には、全部自治会に任せて自分たちはもう全くノータッチという考え方が横行していて、どんな提案や質問をしても、「もう自治会のほうに任せていますから自分たちは知りません」というような対応の仕方をされる。そうではなく、行政もある程度の主導権を握ってやらないと、協働とか、共に働くということにはならない。だから、市として、自分たちが意識を改革してやるのだということを表示していただきたい。</p>
---------------------	---

委員	<p>今の点については、北部のほうと南部地区では少し違っている。南部では、例えば、地域コミュニティの会議等があると、夜の時間帯であっても市の職員さんが来て説明をしてくれて、一緒に進めている。そして、協働課の職員さんだけでなく、南部に住んでいる職員さんが全員、まちづくりコミュニティの場に参加される。そういう場に私も参加して、いつも市役所の職員さんの姿勢はすごいなと感じている。</p>
委員	<p>市職員が努力されている地域もある。</p>
委員	<p>しかし、その先のところが、先ほどのリーダー育成という話につながる。市役所の職員の方が来るので、こちらも頼る。ところが、市の職員は3年ごとくらいで異動があるので、全く素人の職員さんに頼らないといけないことになる。それではいけない。</p>
委員	<p>高齢者についても、地域コミュニティの中で、高齢者をいかに活躍させるかについて、行政を含め、老人会の会長や民生委員も入って話し合いをしている。北部と南部では少し違うのだと、意見を聞いて思った。</p>
委員	<p>私も、先ほど意見があったように、最初のほうは「自分たちが」と言っていたが、いつの間にか主語が「役所が」に変わっているのが気になる。私は度島だが、度島には市役所の支所はなく、連絡所という小さい窓口しかない。そういう中で、自分たちでやっていっている。極端に言えば、役所に頼らないで自分たちがやるみたいな書き方をしてもいいのではないか。地域の人が「市役所の人是要らない」と言えば、市役所の仕事が減って、職員の人数も減らせて、その分の税金も使わずに済む。何でもかんでも役所と一緒にしなければいけないということではなく、もう少し、自分たちがやるというところで一貫して書いてもいいのではないか。</p>
事務局	

<p>会 長</p>	<p>今日、たくさんのご意見を頂いたので、もう一回起草委員会で、今日のご意見を踏まえて調整をかけ、この後に決めていただくキャッチフレーズまで入れた形にして、再度この審議会に提案させていただきたいと思うが。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局の提案のような形でよろしいか。</p> <p>(一同「異議なし」)</p> <p>(基本理念(キャッチフレーズ)と総合計画名称について)</p> <p>起草委員会、市長、市職員、事務局等から、30余りの案が挙がっていた中から、起草委員会で協議してこの3つに絞った。この中から1つを選びたいと思います。決定の仕方としては、これだけ人数が多い場合は投票形式で決めることがほとんどなので、今回も投票形式で、一番票の多いものについて、文言等を確認した上で決定するという形にしてはどうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>方法についてはそれでいいが、この3つの案について、どういう思いでこういうフレーズになったか説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>これまで4回の起草委員会を行ってきた。その中で出たワードとして、平戸の宝、資源、観光、歴史、文化等があった。それを踏まえて、1番は、それらを今後も発展させないといけない、磨かないといけないというところで、この言葉が出てきた。2番は、大事なものは人だという意見もあり、そこからこれが出てきたの。3番は、平戸は希望や夢があふれる所でないといけないということで出てきた。</p>
<p>会 長</p>	<p>それでは、決定の仕方について異論がなければ、今から投票用紙を配布したい。キャッチフレーズと計画の名称について、1つずつ選んでチ</p>

	<p>エックを入れてほしい。</p>
<p>会 長</p>	<p>(投票用紙に各自記入)</p>
<p>事務局</p>	<p>記入していただいている間に、議事(3)の「今後のスケジュールについて」の説明をしていただきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>(事務局から今後のスケジュールについて説明)</p> <p>それでは、投票の集計結果を報告する。1番目のキャッチフレーズについて、(1)と(3)が同数。2番目の計画の名称については、(3)が最多。「平戸市未来羅針盤」に決定したいと思う。キャッチフレーズについては、(1)と(3)で決選投票を行うか。</p>
<p>会 長</p>	<p>(「会長一任」の声あり)</p> <p>3)の「夢あふれる 未来のまち 平戸」がいいと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>(一同「異議なし」)</p>
<p>会 長</p>	<p>それでは、キャッチフレーズは「夢あふれる 未来のまち 平戸」、計画の名称は「平戸市未来羅針盤」に決定する。</p> <p>会議終了</p>